

古墳時代の埋葬施設構造からみた規範と地域集団の 体制に関する研究 [全文の要約]

著者	山田 暁
発行年	2021-03-31
学位授与機関	関西大学
学位授与番号	34416甲第814号
URL	http://doi.org/10.32286/00025767

古墳時代の埋葬施設構造からみた規範と地域集団の体制に関する研究

山田 暁

論 文 要 約

本研究は、古墳時代前期（3 世紀後半）から終末期（7 世紀初頭）にいたる埋葬施設の構造について分析し、埋葬施設に関する規範が存在したかについて検討を行う。埋葬施設に関する規範とは、埋葬施設の構造が地域集団内部、または近畿地方の中枢勢力や他の地域集団においても共通していた状況である。それらが古墳時代をとおしてどのように変化したのかを考察し、当該期における造墓活動を行った地域集団と近畿地方の中枢勢力の関係とその体制について推察することを本研究は目的とする。

周知のように、古墳時代前期から、突如として前方後円墳が築造され始めた。このような前方後円墳の発生の背景には、近畿地方の中枢勢力が他の地域集団に比べて優位的な立場で埋葬や葬送儀礼などを各地域に副葬品の配布や様々な技術伝播とともに広げていったためと理解できる。そのため、古墳時代前期における埋葬施設の構造は日本列島の広い範囲に共通しており、近畿地方の中枢勢力が地域集団に埋葬施設に関する規範を差配したと推定できる。また、埋葬施設の構造のみならず、近畿地方の中枢勢力と共通の埋葬施設を構築することは、葬送儀礼や埋葬行為など埋葬施設を使用するための情報や行為も含めて共有した可能性が高い。

このことから、近畿地方の中枢勢力は他の地域集団よりも中心的政治集団として位置づけられ、地域集団との関係は直接または間接的に統治や支配を掌っていたと想定できる。一方、地域集団は各地方や各地域で首長が直接的な支配を行われていたと考えられ、古墳から出土する副葬品の多寡や埋葬施設の規模、前方後円墳の存在から階層構造が存在し、地域集団内には明確な序列と秩序があったと想定された [福永 1999・2001]。

このように埋葬施設に関する規範は、古墳時代前期に近畿地方の中枢勢力によって構築されたと考えられ、多くの地域集団においても前方後円墳やその埋葬施設の構造

が共通したことから、近畿地方の中枢勢力と地域集団の交流は密接であったと考えられる。

しかしながら、古墳時代を通時的にみたとき、埋葬施設に関する規範は常に存在していた化は不明である。古墳時代前期以降、主体部である埋葬施設やその内部に安置された棺には様々な形態や構造が認められるようになり、新たな埋葬施設まで出現するようになる。つまり埋葬施設が多様化し、各地域によって大きな差異が認められることが明らかになってきた [和田 1994a]。このことは、地域集団内部で独自に埋葬施設に関する規範を採用し、近畿地方の中枢勢力とは埋葬に関する優位的立場をもち、葬送に関する行為を差配しなくなったと想定できる。そのような中でも埋葬施設の構造において規範が認められる。そのため、近畿地方の中枢勢力は地域集団よりも一定の優位的立場を保ち政治的中心であったことに変化はなかったと考えられる。

このように、埋葬施設の構造や構築技法が近畿地方の中枢勢力から各地域へ伝播したという単純な理解だけでは、近畿地方の中枢勢力と地域集団の体制を説明できず、むしろ近畿地方の中枢勢力と地域集団の間には時期によって様々な目的による関係の構築が想定できる。つまり、多様な関係に基づく体制が存在したと予想でき、古墳時代をとおしてそれらが変化していったと想定できる。そこで、本研究では埋葬施設の構造に関する規範の有無を明らかにした後、近畿地方の中枢勢力が目的とした各地域集団の体制構築について、実証的に吟味・検討し、その体制について具体的な復元を試みる。

なお本章の構成は、第1章では古墳時代前期の埋葬施設、第2章では古墳時代前期後半の刳拔式石棺、第3章では古墳時代中期における刳拔式石棺、第4章では古墳時代中期中葉から後期前半の初期群集墳における埋葬施設、第5章では古墳時代後期後半の群集墳の埋葬施設、第6章では古墳時代後期後半から終末期における組合式家形石棺であり、各章において埋葬施設の規範と地域集団の体制について考える。

終章では本研究において着目した本研究では、①埋葬施設の構造に関する規範の有無②近畿地方の中枢勢力と地域集団間の様々な目的による関係の変遷③近畿地方の中枢勢力が目的とした各地域集団の体制構築の復元について通時的に検討する。